

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：21403
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2018～2023
 課題番号：18K02677
 研究課題名（和文）道徳科の探究型授業モデルの開発と遠隔化システムを活用した指導と評価の開発的研究
 研究課題名（英文）Development of an inquiry-based lesson model for moral studies and development of instruction and evaluation using a remote system
 研究代表者
 毛内 嘉威（MONAI, Yoshitake）
 秋田公立美術大学・美術学部・教授
 研究者番号：70712769
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究における探究型道徳授業モデルの開発は、社会で大切にされてきた様々な道徳的価値について問題意識を持って主体的に学び、様々な角度から考えを深める学習を提案することができた。さらに、家庭や地域社会の人々を巻き込んだ探究型道徳授業モデルについても、学校・教育行政と連携して実践的に研究に取り組み、道徳性の育成に結びつく郷土資料を活用した授業モデルを明らかにすることができた。遠隔化システムを活用した学校・教育行政・大学研究機関が連携した取り組みは、物理的距離を克服し、効果的な道徳科の指導方法を改善したり、一人一人のよさを伸ばし成長を促す評価を充実させたりすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

道徳科の授業において道徳性を育むためには、教師が教える（Teach）から児童生徒が獲得する（Catch）授業へ変える必要がある。つまり、児童生徒が問題意識をもって、主体的に道徳的価値を他者と自分の考えを比べて更に深め、自分との関わりで納得解を導き出す道徳授業に変えることである。

また、遠隔化システムを活用した授業や評価の改善は、学校・教育行政・大学等の研究機関が連携して授業改善に取り組み、学校間格差・教師間格差の是正につながった。コロナ禍で対面授業や教員研修が中止となる中、遠隔化システムを活用することにより、すべての子供に主体的に学べる道徳授業を提供し、質的転換を図る契機となった。

研究成果の概要（英文）：The development of an inquiry-based morality lesson model in this study was able to propose a learning method in which people actively learn about various moral values that have been cherished in society with an awareness of the issues and deepen their thinking from various angles. Furthermore, we conducted practical research in collaboration with schools and educational administration regarding an inquiry-based morality lesson model that involves people at home and in the local community and we were able to clarify a lesson model that utilizes local materials that are linked to the development of morality.

Collaborative efforts between schools, educational administrations and university research institutes using remote systems became possible to overcome physical distance, improve effective moral education teaching methods and conduct evaluations that develop each individual's strengths and encourage growth.

研究分野：道徳教育、教育方法

キーワード：道徳科 探究型道徳授業モデル 主体的・対話的で深い学び 問題意識 評価 遠隔化システム
 授業改善 指導と評価の一体化

1. 研究開始当初の背景

(1) 学校教育における背景

文部科学省では、「特別の教科 道徳」（以後「道徳科」という）を要とした道徳教育の抜本的改善・充実に取り組み、新しい学習指導要領の全面改訂を行った。この発端となったのが、いじめ問題への対応であり、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性のある力を育成することが強く求められている。

道徳教育においては、これまで受け継がれ、共有されてきたルールやマナー、社会において大切にされてきた様々な道徳的価値などを一定の教育計画に基づいて学び、それらを理解し身に付けたり、様々な角度から考察し自分なりに考えを深めたりする学習の過程が重要である。特に道徳教育の要である道徳科において、様々な状況の中で、事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、実行する手立てを考え、実践できる資質・能力の育成が求められている。

しかし、学校現場での道徳教育や道徳科への実施については、学校間・教師間格差のため「考え議論する」道徳への質的転換についても理解に大きな差があり、多くの学校で共通して取り組むことが難しいと考える。今後、検定教科書を導入し、道徳科を多様で効果的な指導方法へと改善したり、一人一人のよさを伸ばし成長を促すための評価を導入し充実させたりするためには、学校・教育行政・大学研究機関が連携して取り組むことが必要不可欠である。

(2) 研究の背景

道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、同時に、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支える道徳性を育成するものである。また、道徳教育の要である道徳授業は、多様な価値観に誠実に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢や資質能力を養う時間である。その意味で、道徳科では、人として生きる上で重要な道徳的価値について、子供が発達の段階に応じて学び、理解を深めるとともに、人生において出会うであろう多様で複雑な具体的事象に対し、一人一人が多面的多角的に考え、判断し、適切に行動するための資質・能力を養うことを目指さなくてはならない。

そのためには、子供が自ら学びたいという課題意識や課題追究への意欲を高め、学習の見通しなどをもちたせることが大切である。もちろん、教材や生活体験などを生かしながら、一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるように、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることが望まれる。道徳的価値や児童自身の生活について多様な観点から捉え直し、自らが納得できる考えを導き出す道徳授業モデルを開発することが重要である。

このような道徳授業モデル（以後「道徳探究型道徳授業モデル」と呼ぶ）の成立には、教師が子供一人一人の人間的な成長を見守り、子供自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつ評価が必要である。教師にとっても、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となる評価システムを構築する必要がある。また、学校としての取組や教師自らの指導について改善を行う評価サイクルを構築することが重要である。

2. 研究の目的

(1) 研究の目的

本研究の目的は、道徳科における道徳授業の指導法について検討し、道徳性を育むための探究型道徳授業モデルを開発する。また指導と評価の一体的な在り方に関する遠隔化システムを活用した実践的提案である。本研究は、大学研究機関が、遠隔化システムを活用して学校・行政と連携し、上記の評価サイクルを支援しようとするものである。

① 道徳科の指導方法を多方面から検討し、自らの経験や体験を基に考え深める探究型道徳授業モデルや、

家庭や地域社会の人々を巻き込んだ探究型道徳授業モデルを開発する。

- ② 指導に生かされ子供の成長につながる評価を、遠隔化システムを活用して大学と学校・教育行政が連携して、指導と評価の一体的な在り方を提案する。
- ③ 探究型道徳授業モデルを通して、指導と評価の在り方を検証し、有効性を明らかにする。

(2) 研究の年度計画

【平成30年度】

- ① 道徳科の指導方法について、国内外の多方面の実践から検討して有効性と課題を明らかにする。
- ② 道徳科の探究的な授業について検討し、探究型道徳授業モデルを提案する。
- ③ 探究型道徳授業モデルを実践し、検証する。
- ④ 遠隔化システムの運用準備（※児童生徒の個人情報の機密を保持できる遠隔化システムの導入準備）

【平成31（令和元）年度】

- ① 道徳科の探究的な授業について検討し、探究型道徳授業モデルの具体を提示する。
- ② 探究型道徳授業モデルを実践し、その有効性を検証する。
- ③ 遠隔化システムの運用準備
*遠隔化システムの導入にあたって教育委員会・学校等と具体的運用の交渉等を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって最終的に中止となる。

【令和2年度】

- ① 子供の経験や体験を基に考え深める探究型道徳授業モデルを開発する。
- ② シティズンシップ教育の視点から家庭や地域社会の人々を巻き込んだ授業モデルの文献調査
- ③ 家庭・地域と融合した探究型道徳授業モデルの提案
- ④ 遠隔化システムを活用した道徳授業を提案する（教育委員会と共同で遠隔化システムによる研修会等を企画する）
*新型コロナウイルス感染症の拡大のため学校現場が対面での授業等を停止し、予定されていた研究授業が中止となる。

【令和3年度】

- ① 探究型道徳授業モデルを開発し、学校現場に遠隔システムにて提示する。
- ② コロナ禍のため、家庭や地域社会の人々を巻き込んだ道徳授業モデルの開発をする。
- ③ 家庭・地域と融合した探究型道徳授業モデルの実施が不可能となり、断念する。（新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となる）
*新型コロナウイルス感染症の拡大のため学校現場が対面での授業が部分的に再開したが、基本は遠隔システムによる授業・研究会となる。

【令和4年度】

- ① 探究型道徳授業モデルを学校現場に実践し、効果を検証する。
- ② 遠隔化システム（ICT）を活用した探究型道徳業モデルを開発し、提案する。
- ③ 遠隔化システムを活用し、指導と評価の一体化を学校および教育委員加藤と連携し、実践する。
- ④ 道徳科における評価（道徳科の学習状況の評価と授業に対する評価）の開発
- ⑤ 遠隔化システムの運用し、探究型道徳授業モデルの実施、指導と評価の在り方の検証

【令和5年度】

- ① 探究型道徳授業モデルを学校現場に実践し、効果を検証する。
- ② 指導方法の改善・充実に取り組むための資料となる評価システムを開発する。

- ③ 道徳科の探究型道徳授業モデルを通して指導と評価の在り方について部分的に検証する。
* 教師の働き改革のため、学期ごとの通知表等が廃止される学校が増加し、通知表の道徳科の評価欄の記載が行われなくなった。
- ④ 遠隔化システムを活用した指導と評価の一体化システムの有効性を明らかにする

3. 研究の方法

- ① 道徳科の指導方法を各学校現場の実践や文献調査など多方面から検討して、その有効性と課題を明らかにする。
- ② 子供の経験や体験を基に考え深める道徳科の探究的な授業について検討し、学校現場と共に探究型道徳授業モデルを開発する。
- ③ 各教育委員会や学校現場と共に、学校が家庭や地域社会を巻き込んだ探究型道徳授業モデルを開発する。
- ④ 各教育委員会や学校現場が子供の個人情報の機密を保持し、セキュリティが確保され安心して連携できる環境を提供し、常時連携できるようにする。
- ⑤ 教師が子供一人一人の人間的な成長を見守り、子供自身のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつ評価を検討する。
- ⑥ 道徳科における評価（道徳科の学習状況の評価と授業に対する評価）の開発と指導と評価の一体化について明らかにする。
- ⑦ 遠隔化システムを活用した指導と評価の一体化について検証し、道徳授業のPDCAサイクルを構築する。

4. 研究成果

(1) 探究型道徳授業モデルの条件

① 主体的・対話的で深い学びの実現

1 単位時間の道徳授業の中に、【道徳的価値を理解する学習〔深い学び〕】、【自己を見つめる学習〔主体的な学び〕】、【多面的・多角的に考える学習〔対面的な主体的な学び〕】、【自己（人間として）の生き方を考える学習〔深い学び〕】の4つ学習が含まれていること。

主体的な学びの視点として「問題意識を持つ」「自分自身との関わりで考える」「自らを振り返る」、対話的な学びの視点として「協働し、対話する」「多面的・多角的に考える」「個別最適な学び・協働的な学び」、深い学びの視点として「道徳的価値を基に考える」「自分自身の固有の選択基準・判断基準の形成の実現」「自己・人間としての生き方についての思考」を重視し、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその際の心情を様々な視点から考え、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとする。

② 探究型道徳授業モデルの要素

ア. 教材や児童生徒の生活体験などを生かし、課題意識や課題追究への意欲を高める工夫をする。

イ. 一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉え、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返る活動を設定する。

ウ. 道徳的価値や生活を多様な観点から捉え直し、納得できる考えを導き出す問いを設定する。

エ. 表現活動や話し合い活動を設定して自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりする問いを設定する。

オ. 道徳的価値に照らして、「自らの生活や考えを見つめる」振り返り活動を工夫する。

カ. 道徳科における効果的な学び方（思考ツールなど）を児童生徒自らが主体的に選択する場を設定する。

キ. 児童生徒自らが道徳的価値を実現するための課題や目標、道徳性を養うことのよさや意義について考える問いを工夫する。

ク. 道徳科の学習全体を見通し、自らの課題や目標を捉えるための学習活動を設定する。

ケ. 授業開始時と終了時における考えの変容が分かるように視覚化するなどの工夫する。

(2) 探究型道徳授業モデルの基本例

導入：本時の主題に関わる問題意識を持つ。これまでの概念を崩す。〔道徳的価値に関わる事象〕

展開：道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める。〔中心場面・中心発問・中心価値〕

本時の道徳の問題を確認し共有する。道徳科で扱う問題は道徳的価値に根ざした問題である。①道

徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題、

②道徳的価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題、

③道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題、

④複数の道徳的価値の問いの対立から生じる問題

終末：自らの道徳的な成長や明日への課題など実感する。自らが納得できる考えを導き出す。

(3) 道徳科における評価と指導と評価の一体化

①道徳科の学習状況の評価（視点）

- ・道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。

②道徳科における授業に対する評価（観点）

・学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己（人間として）の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。

・指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

・発問は、児童生徒が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。

・児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。

・自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。

・ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。

・特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか。

③指導と評価の一体化

探究型道徳授業モデルの成立には、教師が児童生徒一人一人の人間的な成長を見守り、児童生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、勇気付ける働きをもつ評価が必要である。

学校間格差・教師間格差を是正するためには、教師が指導方法の改善・充実に取り組む資料となる指導と評価のPDCAサイクルの構築になる。物理的距離を克服するために、遠隔化システムを活用し、研究機関（大学等）が学校現場や教育委員会をサポートするシステムを構築することが重要となる。遠隔化システムの活用によって、道徳科の評価には、道徳科の学習状況の評価（視点）と道徳科における授業に対する評価（観点）があることを学校現場に理解させ、学校としての取組や教師自らの指導について改善を行う指導と評価の一体化が可能となった。

遠隔化システムを活用した成果の一つとして、JAPET主催「教育情報化推進フォーラム（令和5年3月）」において、研究協力者と共に「ICTを活用した中学校道徳模擬授業 ～教材「足袋の季節」を通して～」と称して、遠隔化システムを活用した授業モデルを提案した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 『道徳と教育』第 341 号
2. 論文標題 道徳教育の現状と課題 ー道徳授業のPDCAサイクルの実現ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 第 100 回大会記念誌（『道徳と教育』第 341 号）	6. 最初と最後の頁 99-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 776
2. 論文標題 書評「道徳授業の質改善に込める「板書づくり」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 道徳教育 2月号	6. 最初と最後の頁 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 Vol.39 No.6
2. 論文標題 総論「道徳科におけるカリキュラム・マネジメントとは」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 道徳と特別活動 2023年2月号	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 2021年10月号
2. 論文標題 特集座談会 「豊かな心を育む道徳教育の充実 今の子供たちに育てたい豊かな心」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文部科学省「初等教育資料 10月号」No.1012（東洋館出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威、岩手県奥州市立佐倉河小学校、東京都荒川区立尾久八幡中学校	4. 巻 Vol.5
2. 論文標題 次世代を生きる子供を育てる道徳授業 「主体的・対話的で深い学び」のある未来志向の道徳授業を目指して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 隔月刊シ リーズ『新教育ライブラリPremier 』Vol.5(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.70-77、82-83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 1
2. 論文標題 第1章 わが国の道徳教育の歴史	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 道徳教育の理論と実践	6. 最初と最後の頁 pp.17-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 1
2. 論文標題 特別企画 評価をどう指導案に取り入れるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 道徳教育2020年7月号	6. 最初と最後の頁 pp.48-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 1
2. 論文標題 指導と評価の一体化を大切にした授業づくり・授業改善 ~道徳授業のPDCAサイクル~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 特別の教科道徳 ~授業力向上への一歩~	6. 最初と最後の頁 pp.14-17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 1
2. 論文標題 道徳科を要とした道徳教育の推進	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 特別の教科道徳 ～授業力向上への一歩～	6. 最初と最後の頁 pp.110-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 No.1
2. 論文標題 第4章 教科・領域別解説 (小学校) 特別の教科 道徳 道徳性を育む道徳科の学習評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 速解 新指導要録と「資質・能力」を育む評価	6. 最初と最後の頁 pp.94-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 No.2
2. 論文標題 第4章 教科・領域別解説 (中学校) 特別の教科 道徳 道徳性を育む道徳科の学習評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 速解 新指導要録と「資質・能力」を育む評価	6. 最初と最後の頁 pp.124-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 No.3
2. 論文標題 道徳科における事前・事後指導の望ましい在り方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊『道徳と特別活動』文溪堂、平成31年度7月号特集	6. 最初と最後の頁 pp.4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 No.4
2. 論文標題 書評「小学校道徳 指導スキル大全」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊「道徳教育10月号」明治図書	6. 最初と最後の頁 p66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・盛岡市立河北小学校	4. 巻 No.5
2. 論文標題 思いやる心とたくましさを育てる道徳教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊シリーズ『学校教育・実践ライブラリvol.5』ぎょうせい	6. 最初と最後の頁 pp.30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 No.6
2. 論文標題 【道徳教育】新課程実施上のチェックポイント 「道徳性を育てるための道徳教育における指導と評価の一体化」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊シリーズ『学校教育・実践ライブラリvol.12』ぎょうせい	6. 最初と最後の頁 pp.54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 Vol.1
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 道徳科における主体的・対話的で深い学び -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ (ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・堀井綾子	4. 巻 Vol.2
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例子ども自身が問題意識をもって仲間と語り合い、考えを深めていく道徳科の授業 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・坂本哲彦	4. 巻 Vol.3
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 行動の動機を分けて比べることで、道徳的価値理解を深める授業 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 7月号
2. 論文標題 論説/あらためて押さえない道徳授業の評価 - 道徳科の指導と評価の一体化 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 道徳教育(明治図書)	6. 最初と最後の頁 pp.2-5
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・川村晃博	4. 巻 Vol.4
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 自己の生き方について創造的に考える子どもの育成 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・吉田修	4. 巻 Vol.5
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 生徒自身が自分ごととして考え、主体的に学ぶ道徳授業 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 Vol.6
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 道徳科における指導と評価の一体化 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・広中忠昭	4. 巻 Vol.7
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 役割演技を使って、やってわかる道徳授業(低学年) -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・須貝牧子	4. 巻 Vol.8
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 生活体験を生かしながら自分との関わりで捉え、主体的に考える道徳の授業 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.74-77
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・野村宏行	4. 巻 Vol.9
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 問題解決的な学習を基本としたい じめに関する大主題学習 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・廣瀬仁郎	4. 巻 Vol.10
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 児童が主人公に自我関与し、多面的・多角的に考えていく道徳の授業 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威・五十嵐由和	4. 巻 Vol.11
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 事例 主体的・対話的な学びを通して、 人間としての生き方について考えを深める道徳の授業 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 Vol.12
2. 論文標題 新教育課程実践講座 主体的・対話的で深く学ぶ教育実践 - 道徳科における主体的・対話的で深く学 ぶ道徳教育の実践 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊リーダーズ・ライブラリ(ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 pp.78-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 No.277
2. 論文標題 論考 新学習指導要領が目指す新しい「特別の教科道徳」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 隔月刊誌『時報・市町村教委』（全国市町村教育委員会連合）	6. 最初と最後の頁 pp.2-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛内嘉威	4. 巻 100号
2. 論文標題 考え議論する道徳教育のススメ「主体的・対話的で深い学び」の実現のために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 道徳ジャーナル（学研）	6. 最初と最後の頁 p.4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 毛内嘉威、佐々木篤史
2. 発表標題 GIGAスクールにおける道徳科の特質を生かした授業づくりに向けて
3. 学会等名 第97回日本道徳教育学会春季大会（宇都宮大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 毛内嘉威
2. 発表標題 未来につなげる道徳教育 ～発達段階を踏まえた道徳教育の実践と連携の充実とは～
3. 学会等名 第98回日本道徳教育学会秋季大会（札幌国際大学）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 毛内 嘉威・早川 裕隆・日向 正志・北川 沙織・藤永 啓吾
2. 発表標題 パネルディスカッション「カリキュラム・マネジメントと道德教育の推進」
3. 学会等名 第92回日本道德教育学会秋季大会（金沢工業大学）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 230
3. 書名 齋藤 嘉則、教師のための教育学シリーズ編集委員会	

1. 著者名 毛内嘉威ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋館出版	5. 総ページ数 296
3. 書名 道德教育キーワード辞典	

1. 著者名 毛内嘉威、上地完治ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 268
3. 書名 道德教育の理論と実践	

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 90
3. 書名 道徳教育2020年7月号	

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2020年
2. 出版社 美巧社	5. 総ページ数 161
3. 書名 特別の教科道徳 ～授業力向上への一歩～	

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 216
3. 書名 速解 新指導要録と「資質・能力」を育む評価	

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 97
3. 書名 月刊シリーズ『学校教育・実践ライブラリvol.5』	

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 97
3. 書名 月刊シリーズ『学校教育・実践ライブラリvol.12』	

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本教育新聞社	5. 総ページ数 215
3. 書名 道徳科Q&Aハンドブック	

1. 著者名 毛内嘉威	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 143
3. 書名 道徳授業のPDCA 指導と評価の一体化で授業を変える！	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------